

Title	編集後記
Sub Title	
Author	宇尾野
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1962
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.55, No.7 (1962. 7)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19620701-0087

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

次号目次

論 説

カルドフ氏の成長理論……………福岡正夫
経済動学化のある起点……………松浦保

資 料

モーゼス・ヘスにおけるフランス社会主義……………野地洋行
——「社会主義と共産主義」をめぐる——
需給均衡と所得分配……………丸尾直美
——厚生経済学的視点からの考察——

書 評

D・リード共著
E・グラスゴウ
『アイルランド人およびチャーティスト
としてのフーガス・オコンナー』……………飯田鼎

新刊紹介

前号目次

論 説

集団的企業の下における
農業生産力構造の変化と拡大再生産方式……………平野絢子
表式的均衡と生産価格……………持丸悦朗
いわゆる「啓蒙の概念」について……………田中明

資 料

ファームをめぐる若干の問題……………渡辺國廣
——十七世紀フランス農業史の研究——

書 評

入江節次郎著
『独占資本イギリスへの道
——現代への序曲——』……………飯田鼎

新刊紹介

編集後記

本号では別に経済史の特集を企図した訳ではない。しかし乍らそのような結果になったのは、結局研究の分化による相互の関連の喪失によるものである。何か自己の研究分野の中で生活している研究者がその小宇宙の中で外界から遮断され、土龍の様にしなければ幸である。土龍の世界を大量的に集合しても所詮は土龍の世界の集合でしかない。

此の号では中村勝己氏、速水融助教授の労作を頂くことが出来て、御両氏に深謝の外ない。

何時も乍ら飯田鼎、常盤絢子助教授の旺盛な研究意欲に感服すると共に、山本登教授初め、諸先生の新刊紹介を得たことを喜ぶ。

研究の細分化による独善と戦後の自由化の傾向が結合して何か奇妙な傾向が生まれているので、経済学会で、学部長小池教授の司会で共通の論題による討論が行われたが、このような努力によって幾分でも右の偏向が是正されることを心から希望する。

塾における美德の一つはアカデミック・パーバリズムが克服されていることにある。

(宇尾野)

昭和三十七年七月一日 発行

◎三田学会雑誌 第五十五巻 第七号

定価 一二〇円(送料)

東京都港区芝三田二丁目二番地

慶應義塾経済学会

編集兼 代表者 山本 登

電話三田(板)五一八一
振替口座番号 東京四四〇五六

印刷者

東京都港区芝三田豊岡町八番地
図書印刷株式会社
安 倍 七 郎

半カ年予約購読料(送料共) 七二〇円

一カ年 " " 一四四〇円

御希望の方は左記へ購読料を添え御中込下さい。

東京都高輪局区内三田綱町一番地

発売所 慶 應 通 信

振替口座番号 東京一五五四九七